

## 東京電機大学中学校・高等学校入学式式辞

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。東京電機大学中学校・高等学校を代表して、みなさんの入学を心から歓迎します。

保護者のみなさまには、お子様のご入学を心よりお慶び申し上げます。多くの中学校、高等学校の中からお子さまの進学先として本校をお選びいただきましたことに、深く感謝申し上げます。

また、学園関係、PTA、校友会、同窓会の方々を来賓としてお迎えし、入学式をあげることが出来ますことは、学校として感謝の念に堪えません。厚く御礼申し上げます。

本校は今から111年前、廣田精一・扇本眞吉両先生が「技術で社会に貢献する人材を育成」するために設立した電機学校という学校を母体として生まれました。当初より「生徒第一主義・教育最優先主義・実学尊重」を標榜し、東京電機大学初代学長である丹羽保次郎先生の「技術は人なり」という言葉とともに、学園の教育・研究理念として受け継がれています。そうした学園の創立と発展を担われた先生たちの教育への思いを受けて、本校の校訓「人間らしく生きる」は定められているのです。大切なことは「人間らしく生きる」とはどういうことかを問い続けることです。自分自身の言葉で「人間らしさ」を表現できるようになって欲しいと願っています。

みなさんは『エルマーのぼうけん』（※1）という物語を知っていますか。今から70年ほど前にアメリカのルース・スタイルス・ガネットという女性が書いた児童文学の名作です。みなさんの中にもきっと小学校低学年のころ読んだという人がいるはずです。私もこの本をワクワクしながら読んだ経験を持っています。

エルマー少年は拾ってきた年寄りの野良猫から、どうぶつ<sup>じま</sup>島では動物に捕まったかわいそうな子どもの竜が、川渡しの仕事をさせられていると聞きます。エルマーは竜を助けることを決意して、リュックサックにチューインガム、棒付きキャンディー、輪ゴム、ゴム長靴、磁石に歯ブラシ、歯磨き粉、良く切れるナイフ、その他、いったい何に使うのだらうと思うような品々を詰め込んで、どうぶつ島に向かいます。島ではトラやサイ、ライオン、ゴリラなどに襲われそうになりますが、エルマーはその都度、知恵と機転を働かせて難を逃れ、ついに竜と対面。縄をほどいて自由の身にしてあげると、エルマーは竜の背中に乗って空を飛び、どうぶつ島をあとにする、というスリルとスピード感あふれた冒険の物語です。

最近、この物語を何十年ぶりかで読み直す機会があり、あらためてその面白さを再認識しました。ある人は親から絵本を読み聞かせてもらうことから卒業して、自分で本を読む最初の一冊に最適と言っていますが、まさにその通りだと思います。この本から読書の世界に入った子どもは、きっと読書好きになるはずです。なぜなら、言葉によって構成されたフィクションの世界がリアルな映像以上に心に響くことを体験させてくれるからです。

読む者を<sup>とりこ</sup>虜にするこの本の面白さの要因の一つは、本の表紙裏に掲げられている物語の舞台となる島の様子をわかりやすく描いた地図と、重要な場面を描いた数々の挿し絵にあるように思います。抽象的な言葉の概念世界だけでは想像しにくい子どもたちには、こうした空間を認識するための地図や、具体的な場面を想像する手立てとなる画像イメージはやはり有益です。もちろん大人の読者にとっても同様です。

しかし、この物語の面白さ、素晴らしさの最大の要因は、何といても主人公のエルマー少年の魅力的なキャラクターにあると言えます。

エルマーは9歳という設定ですが、か弱く小さい者に対する優しい心を持ち、誰に対しても、たとえ自分に襲いかかろうとする動物であっても、礼儀正しい態度で接することができます。その行動は勇敢でありながら同時に冷静沈着であり、行動するにあたっては用意周到な計画性と、身の回りに起きる現象を観察した上で判断する、大人顔負けの洞察力も持っています。

竜を助けることを決断してどうぶつ島に渡る前、エルマーは年老いた猫と周到に救助計画を練り、必要な道具類を揃えていきます。何のために持って行くのかと読者が疑問に思った品々は、エルマーの窮地を救うために見事に利用されるのです。

竜がつながれているはずの川岸を探するとき、エルマーは「川は、うみの中へながれこんでいるはずだから、かいがんをずっとあるいていけば、きっと川がみつかるにちがいない。」と的確に判断します。また、どうぶつ島にはないみかんを食糧として持ってきたエルマーですが、捨てたみかんの皮をイノシシがを見つけ、よそ者が島に侵入してきたのではと疑っていることを知ると、それ以後みかんの皮を捨てないよう気をつけるところも、エルマーの洞察力を示すエピソードです。

『エルマーのぼうけん』は、子どもたちに生きていくために必要な知恵とは何かを教えてください。行動力、計画性、判断力、洞察力。それらの力を必要な時と場面で縦横に組み合わせるアレンジする力です。さらに大切なことは、その知恵を自分が大切と思う正義（エルマーの場合は、理不尽にも捕えられているかわいそうな竜を救うという正義）のた

めに適切に使うことです。そのためには公正さや公平さという価値を、多面的多角的に考えるだけの冷静さも必要なのは言うまでもありません。

みなさんも本校での学びの日々を通じて、エルマーのような賢さを身につけた若者へと育てたいと願っています。そのためには、さまざまな経験を積むことが必要でしょう。経験の場は教科書の中ではなく、現実の世界に存在することを忘れてはなりません。

最後に、ここにいる四百三十数名の新入生の中には、不本意な気持ちを抱いたまま、今日、校門をくぐった人もいないかと想像します。そんな人にも前向きな気持ちで新しい生活をスタートして欲しいと願い、新入生のみなさんに川崎 洋<sup>ひろし</sup>さんの『これから』（※2）という詩をプレゼントしたいと思います。

これまでに  
悔<sup>くや</sup>やんでも悔やみきれない傷<sup>きず</sup>あとを  
いくつか しろしてしまった  
もう どうにもならない  
だが  
これから  
どうにかできる 書きこみのない  
まっさらの<sup>ページ</sup>頁があるのだ  
と思おう  
それに  
きょうこの日から  
いっさいがっさい なにもかも  
新しくはじめて  
なにわるいことがある

以上をもって、私からみなさんへの歓迎の言葉とさせていただきます。

平成 30 年 4 月 7 日

東京電機大学中学校・高等学校  
校長 大久保 靖

※1 ルース・スタイルス・ガネット作（渡辺茂男訳）

『エルマーのぼうけん』（福音館書店刊）

※2 水内喜久雄選・著『川崎洋詩集 海があるということは』（理論社刊）より